

地域文化史

担当教員： 八幡 浩二

履修年次・区分： 3・4年（専門－展開－共生・開発－選択）

授業のテーマ： 考古学とは、発掘調査によって、地下に埋蔵された過去の人間の行為を遺構・遺物の両面から明らかにする学問である。したがって発掘調査の結果、その地域の歴史をただちに物語るのが考古学の大きな特徴であるといえる。本講義では、最新の研究動向について留意しながら地域の古墳を取り上げ、古墳時代の全体像を明らかにするとともに、地域の歴史的な性格を考えることとする。

この日の授業内容： 県立みよし風土記の丘見学



5月の日曜日に1日かけて、広島県三次市にある県立みよし風土記の丘を見学しました。西日本有数の古墳密集地帯として知られる三次地方。ここは、その特徴を典型的に示す古墳群を中心に整備された古墳公園です。公園内の浄楽寺・七ツ塚古墳群には合わせて176基もの古墳が残されています。



公園内にある歴史民俗資料館には県内の原始古代の考古資料がたくさん展示されています。事前に授業の中で映像を見、解説を聞いてはいても、資料の実物を目にする事で理解はぐっと深まります。学生たちは当時の技術力に驚き、歴史に触れることの楽しさを感じました。

(2014年7月取材)